

「長崎全共」 大きな成果

次回5年後には
宮城県で開催

第10回全国和牛能力共進会 (長崎全共) が昨年10月25日から29日まで長崎県佐世保市で開催されました。長崎全共には、和牛の改良を競う種牛

の部と肉質を競う肉牛の部の2部門9区分に、全国38道府県から選ばれた480頭が出品しました。登米市からは宮城県代表26頭中13頭が県代表として出品。上位入賞者が出るなど、これまでにない優秀な成績を

収めました。これは出品者の飼養技術と宮城県基幹種雄牛「茂洋」号が高い評価を受けた結果と言えます。5年後の平成29年には宮城県において第11回全国和牛能力共進会が開催されることから、さらなる飛躍が期待されます。

全国和牛能力共進会



全国和牛能力共進会は、全国の和牛を5年に1度、一堂に集めて優劣を競う大会で「和牛のオリンピック」といわれる。雄牛・雌牛の和牛改良の成果を競う「種牛の部」と肉質を競う「肉牛の部」がある。昭和41年の岡山県大会から平成19年の鳥取県大会まで計9回開催されてきた。平成24年の第10回大会 (長崎全共) では、宮城県が9部門中5部門で最高賞となる優等主席を獲得するなど、総合得点で前回大会に続いて2連覇を達成した。

市内関係者の団結力で かつてない優秀な成績

登米市が中心になって出品した今回の「長崎全共」では、宮城県勢はこれまでにない優秀な成績を収めることができた。これは宮城県の基幹種雄牛である「茂洋」の資質が全国的に高く評価されたこと、そして、出品した登米市の生産者をはじめ和牛改良組合や育種組合、関係機関の団結力があつたからだと思います。成績では上位の宮崎、鹿児島



みやぎ登米農協畜産課 課長 石川 正男

鳥島といった九州勢には一歩及びませんでした。5年後に開催される「宮城全共」に向け生産者、関係者にとっても励みになる結果だと思います。

「雲の上」だった入賞は自信 5年後に向け息子と頑張る



長崎全共に出品、入賞 千葉 啓 さん

「全共」に牛を出品するのは10年前に開催された「岐阜全共」以来です。2回目でしたので落ち着いて参加できました。初めて参加した若い人

「全共」に牛を出品するのは10年前に開催された「岐阜全共」以来です。2回目でしたので落ち着いて参加できました。初めて参加した若い人

良い牛を市内でたくさん 保留する取り組み継続

5年に一度開催される「全共」は、審査の結果が和牛のブランド化に大きく影響することから、各道府県の威信をかけた非常に重要な大会と位置づけられています。

全国上位の常連となっている九州勢との差は、生産頭数の差が大きいですね。良い牛をたくさん保留して、その中からさらに良い牛を選ぶ。市としても、今回高い評価を受



市農産園芸畜産課 課長補佐 橋 洋二

けた県基幹種雄牛の「茂洋」の子を市内で保留する取り組みをいっそう進めていきます。登米市は全国的に見ても若い後継者が多いので楽しみです。

全共2連覇の宮城県 関係者招き講演会

昨年10月に長崎県で開催された第10回全国和牛能力共進会 (長崎全共) で2連覇を達成した宮城県から講師を招き、畜産講演会が1月23日に開催されました。県和牛改良組合協議会などの主催。会場となった迫地方農業共済組合には市内の畜産農家ら約250人が参加しました。

講師は宮城県西諸郡市畜産販売農業協同組合連合会参事の谷之木信弘氏。谷之木氏は「今回日本一になれたのは、宮城県の生産者、関係者が『何が何でも日本一を獲るんだ』という高い意識を持って取り組んだ結果だ」と話し「宮城県内のレベルを上げて、どの審査員が見ても負けない牛づくりを目指した」と強調しました。



市内畜産関係者に「日本一への取り組み」として講演した谷之木氏



「長崎全共」に出品した宮城県チームのメンバー (会場となった長崎県佐世保市のハウステンボス)

- 第11回 全共宮城県実行委員会
- 長崎全共の入賞者 (敬称略)
- ▼第2区【若雌の1】優等賞 5席 小野寺正人 (迫町・菱の倉)
 - ▼第6区【高等登録群】1等賞 5席 佐々木昌典 (豊里町・長根)、中川大志 (豊里町・東二ツ屋)
 - ▼第7区【総合評価群】優等賞 6席 山之内 (千葉啓 (迫町・山の内)、大立目敏夫 (米山町・追土地)、守屋慶市 (迫町・大浦)、服部泰啓 (豊里町・庚申)、「肉牛の部」千葉敏 (豊里町・大曲)、佐瀬徳 (南方町・柳沢)
 - ▼第8区【若雄後代検定牛群】2等賞 千葉英軍司 (中田町・並柳)
 - ▼第9区【去勢肥育牛】1等賞 千葉正憲 (登米町・岡谷地)、千葉敏 (第7区に同じ)